

「第18回奨励賞・功労賞」記念特別号

日本女性科学者の会 NEWS



The Society of Japanese Women Scientists

No.113 Special Issue, 2013.9

I. 第18回(2013年度)日本女性科学者の会奨励賞・功労賞の贈呈式に寄せて

第18回(2013年度)日本女性科学者の会奨励賞・功労賞の贈呈式ならびに奨励賞受賞記念講演会が、梅雨の最中にも拘らず晴天に恵まれ、去る6月30日(日)午後2時より学士会館で執り行われました。

本年度の奨励賞には『蛍光標識を必要としない革新的遺伝子一塩基の蛍光検出法の開発』のテーマに対し武井史恵氏に、功労賞には男女共同参画社会の推進のために永年に亘り多大なるご尽力・ご貢献をされました坂東昌子氏、および日本分子生物学会に初めて年会保育室を設置され、男女共同参画学協会連絡会の中心的役割を果たされました大坪久子氏のお二方に贈呈されました。このご3名の方々のプロフィールなどにつきましては本号ニュースに詳しく掲載されておりますので、ご一読いただければと存じます。

本賞の応募者数は年々減少してきてはおりますものの、それに反して応募者個々の国際的業績レベルは高く、選考に際しては選考委員の方々が一段とエネルギーを費やさざるを得ないほど大変な激戦となっております。また本賞受賞者のほとんどの方が受賞後昇進されており、そのうね約65%の方々が教授ポストを獲得されておられます。この事から、本奨励

日本女性科学者の会 会長 大倉 多美子

賞が学術領域において着実に高い評価を受けていることが伺われます。それ故、本会が質の高い科学研究者の育成に一役を担っているものと確信いたしております。

1995年に第1回の贈呈式が行われまして以来、今年度無事第18回目の贈呈式を行うことができましたことは喜びに堪えません。ひとえに会員各位はもとより、高い志を持たれた諸先輩方の熱意とお力添えによるものと思っております。SJWSとしてさらなる充実を図り、努力を致していく所存でございます。つきましては常日頃よりご支援・ご高配をいただいております各界の方々のお陰と心より深謝申し上げますと共に、今後はこの賞が末永く継続していくために、尚一層の皆様方のご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

また当日はご多忙中にもかかわらず、内閣府男女共同参画局 佐村知子局長、松久保大作 総務課企画係、文部科学省 高等教育局 板東久美子局長、国立女性教育会館 内海房子理事長、女性学習財団 大野曜理事長、ならびに賞選考委員の一人である東工大 星元紀名誉教授の方々にご臨席を賜り、賞贈呈式ならびに懇親会にてご丁寧なご祝辞を頂戴いたしました。この紙面をお借りいたしまして、深く感謝の意を表します。今後とも当会の発展のために尚一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後に本会のことになりますが、永年本賞に携わりました濱中、佐藤両理事の退任にあたり、花束を贈呈いたしました。

目次

- I. 第18回(2013年度)日本女性科学者の会奨励賞・功労賞の贈呈式に寄せて…………… 1
- II. 第18回日本女性科学者の会 奨励賞・功労賞受賞者のプロフィール、賞選考経緯…………… 2
- III. 奨励賞受賞者の講演要旨…………… 4
- IV. 受賞者の挨拶…………… 5
- V. 第19回「日本女性科学者の会奨励賞」候補者募集要項…………… 6
- VI. 会長挨拶とお知らせ…………… 7
- VII. 東日本大震災関連、新入会員…………… 8
- VIII. 2013年度(平成25年)理事会メンバー…………… 9
- IX. 総会報告、2012年度会務報告、2013年度事業計画 …… 10
- X. 支部だより…………… 11
- XI. 第18回奨励賞・功労賞贈呈式およびレセプションと総会風景…………… 12

奨励賞受賞者
武井氏

大倉会長

功労賞受賞者
坂東氏功労賞受賞者
大坪氏

第18回日本女性科学者の会
奨励賞受賞



武井 史恵氏
(TAKEI FUMIE)

42歳

博士(理学)
大阪大学
産業科学研究所 助教

研究課題: 蛍光標識を必要としない革新的遺伝子一塩基の蛍光検出法の開発

賞贈呈理由: PCR(ポリメラーゼ連鎖反応)で確定診断を行っている現行のウイルス感染の検出において、感染現場において検出可能であり、安価でかつ迅速な高感度検出手法となり得る「ヘアピンプライマー(HP)-PCR法」を新規に開発し、その真の実用化に向けて着実な研究成果を重ねてきた。B型、C型肝炎やデング熱ウイルスの検出への応用も検討されており、新規病原体の出現や感染拡大が全世界的脅威となっている現在、ウイルスの拡散や変異を検出する手法として確立されれば、社会的意義もきわめて大きい。

略歴: 1993年、東邦大学理学部化学科卒業。1993~2005年、大阪大学産業科学研究所有機金属研究分野・教務職員、この間2000年:論文提出により学位取得(博士(理学)東邦大学)。2005~2007年、大阪大学産業科学研究所精密制御化学研究分野:教務職員。2007年より大阪大学産業科学研究所精密制御化学研究分野:助教。この間2011年:コンスタンツ大学客員研究員(A. Marx 教授)。

連絡先: 〒567-0047 大阪府茨木市美穂ヶ丘8-1 大阪大学 産業科学研究所
TEL 06-6879-8457 FAX 06-6879-8459
E-mail: f-takei@sanken.osaka-u.ac.jp

第18回日本女性科学者の会
功労賞受賞



坂東 昌子氏
(BANDO MASAKO)

75歳

理学博士
NPO法人
知的人材ネットワーク
あいんしゅたいん理事長

賞贈呈理由: 坂東氏は、自宅を提供しての共同保育所を運営、大学と地域に保育所を設置に始まり、女性研究者の会:京都の設立、全国的な女性研究者の実態調査の実施(「女性研究者のライフサイクル調査」として公表)、その後、日本物理学会の初代男女共同参画推進委員会委員長に就任し、学会の横のネットワークである男女共同参画学協会連絡会の設立に携わり、2代目の委員長を務めるなど、さらに若手研究者及び女性研究者の支援に尽力した。ポストク問題にも着目し、日本物理学会に若手支援のためのキャリア支援センターを設立し、初代センター長を務めた。さらに、NPO法人知的人材ネットワークあいんしゅたいんを設立し、異分野研究者の横の連携強化にも取り組むなど、我が国の女性研究者、若手研究者の支援に現在も大きく貢献している。

略歴: 1960年、京都大学理学部卒業、同大学大学院理学研究科修士課程入学(湯川秀樹研究室)。1965年同大学院博士課程修了(理学博士)、同大理学部助手。その後、同大講師を経て、愛知大学教養部教授、教養部長、情報メディアセンター長などを歴任。2004年、日本物理学会男女共同参画推進委員会委員長、2006年、同学会副会長、2007年、同学会会長。2008年、愛知大学を定年退職(愛知大学名誉教授)、知的人材ネットワークあいんしゅたいん設立(理事長)。専門は素粒子論・応用数理・放射線リスク研究他。著書・論文多数(「物理と対称性」(丸善出版)、「理系の女の生き方ガイド」(講談社ブルーバックス)他)。

連絡先: 〒606-8317 京都市左京区吉田本町5-14
NPO法人 知的人材ネットワークあいんしゅたいん
TEL: 075-762-1522 FAX: 075-762-1523
E-mail: bando@yukawa.kyoto-u.ac.jp

第18回日本女性科学者の会
功労賞受賞



大坪 久子 氏
(OHTSUBO HISAKO)

67歳

薬学博士

日本大学薬学部上席研究員、同大生物資源科学部非常勤講師、上智大学女性研究者支援事業グローバルメンター

賞贈呈理由：大坪氏は2001年に日本分子生物学会における初めての年会保育室設置をはじめとして、同学会のみならず広く男女共同参画学協会連絡会の中心となって、連絡会による大規模アンケートの実施、解析、そして関係各機関への要望書作成に取り組んだ。これが元となり、第3期科学技術基本計画に女性研究者に関する具体的な数値目標が盛り込まれるなど、日本の科学界における男女共同参画推進と女性研究者支援に大きな貢献を果たした。

略 歴：1970年、九州大学大学院薬学研究科修士課程修了（薬学修士）、金沢大学がん研究所 助手、薬学博士取得（1975年、九州大学）。1974～1982年、ニューヨーク州立大学にて博士研究員、及びResearch Assistant Professorとして勤務。1982年より、東京大学応用微生物学研究所助手、1994～2009年、同大学分子細胞生物学研究所 講師。2009年、東京大学定年退職後、日本大学総合科学研究所教授（女性研究者支援推進ユニット長）を経て、現在、日本大学薬学部 上席研究員、同大生物資源科学部 非常勤講師、上智大学女性研究者支援事業グローバルメンター。専門は転移性遺伝因子（トランスポゾン）によるゲノム動態とその進化。1994年第32回三島海雲記念財団奨励賞受賞。

連絡先：〒274-8566 千葉県船橋市習志野台7-7-1 日本大学薬学部薬学研究所

TEL：047-465-5340（所属先）／TEL：03-3812-3622（自宅）

E-mail：ohtsubo.hisako@nihon-u.ac.jp

第18回(2013年度)日本女性科学者の会賞選考経緯

第18回日本女性科学者の会奨励賞について、今年度も、応募者を広く自然科学系より公募した。全体で21件の応募があった。内訳は、物理・数学分野0名、化学分野4名、生物・生化学分野3名、医学・薬学分野13名、その他1名であった。各研究分野で高名な複数の外部評価委員に学術的な評価を依頼し、その審査意見を参考にして本会理事会で慎重な審議を行った結果、化学分野の武井史恵氏一名を決定した。研究テーマは「蛍光標識を必要としない革新的遺伝子一塩基の蛍光検出法の開発」である。プロフィールの賞贈呈理由に示すように化学的手法を用いて、非常に先駆的な研究を、実用化を視野に入れながら展開していることが評価された。

功労賞は、「①自然科学の発展、学術研究に顕著な功績のあった女性科学者、②女性科学者の研究推進・地位向上に寄与した者、③本会会員であり、会のために尽力し顕著な功績のあった者のいずれかに該当する者」が会員から推挙され、本会理事会で決定さ

れる。今年度は、NPO法人知的人材ネットワークあいんしゅたいん理事長 坂東昌子氏、および、日本大学薬学部上席研究員 大坪久子氏が推薦された。

坂東氏は、賞贈呈理由にそのご活躍を記しているが、NPO法人知的人材ネットワークあいんしゅたいんを設立し、異分野研究者の横の連携強化にも取り組むなど、我が国の女性研究者、そして若手研究者の支援に現在も大きく貢献している。

大坪氏は、賞贈呈理由に示すように日本分子生物学会のみならず広く男女共同参画学協会連絡会の中心となってご活躍され、日本の科学界における男女共同参画推進と女性研究者支援に大きな貢献を果たした。

本会理事会で審議の結果、学術研究に顕著な功績があり、女性科学者の研究推進・地位向上に大きく貢献された坂東氏、大坪氏に、本会より功労賞贈呈を決定した。

(文責 前賞担当理事 佐藤 縁)

蛍光標識を必要としない革新的遺伝子一塩基の蛍光検出法の開発

大阪大学産業科学研究所 精密制御化学研究分野 武井 史恵

一塩基多型 (Single Nucleotide Polymorphisms, SNP) は、疾病関連遺伝子などの探索における遺伝子マーカーとして極めて有用であると同時に、近い将来、疾病リスクの診断や個人に最適な薬剤の選択、副作用の予測等のオーダーメイド治療への利用が期待されている。このため、SNPを簡単、迅速、安価に解析する SNP タイピング手法の開発が近年活発に研究されている。現在使われている SNP タイピング手法のうちアレル特異的 PCR 法は、遺伝子の一塩基多型をアレル特異的な PCR プライマーを用いて、被検査遺伝子が増幅される、されないにより SNP を調べる方法で、最も原理的に明快な SNP タイピング法である。また信号感度の高さから、検出法としては蛍光法を用いる手法が最も一般的である。PCR 増幅の有無を調べる手法としては、PCR 産物のゲル電気泳動による分離や、DNA マイクロアレイ、リアルタイム PCR 法、濁度の測定などがあるが、操作の簡便さ、迅速性さらには費用の面で問題が残されている。

最近、我々はシトシンバルジに特異的に結合し、特徴的な蛍光を発する低分子リガンド (DANP) を発見した (Bioorg. Med. Chem. 2005, 13, 4507-4512)。このリガンドの蛍光は DNA のシトシンバルジ構造 (相補的な塩基を持たない DNA の構造) に隣接する塩基配列に鋭敏に応答し、配列によって蛍光強度の増大または減少が観測される。この性質を使えば他の SNP タイピング法と比べて、より簡便で迅速そして高性能な検出法が確立出来るのではないかと考え、この研究を始めた。さらに、ウイルス検出にも応用し、我々の開発した検出法の実効性について検証した。

DNA シトシンバルジ 隣接 塩基配列 を読む 一塩基多型 (SNP) 検出法の開発 (Figure 1)

2,7-ジアミノナフチリジン (DANP) は、DNA 二重鎖中のシトシンバルジ構造に特異的に結合し、特徴的な蛍光を示す。その波長と強度はシトシンバルジ構造に隣接する塩基配列によって大きく変化する。私は、様々な塩基配列蛍光強度について検討し、蛍光強度変化を隣接塩基配列でパターン化することにより、遺伝子の一塩基多型 (Single Nucleotide Polymorphisms, SNPs) を簡単に判別する遺伝子変異検出法 (SNP タイピング) を開発した。

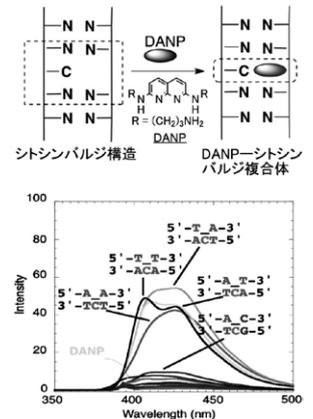


Figure 1. DANP-シトシン複合体とシトシンバルジ構造の周辺塩基配列の違いによる蛍光強度変化

DNA の二次構造変化を利用した実用的 SNP タイピング法開発 (Figure 2)

更にこのDANPを使った遺伝子検出法を改良し、一塩基多型を簡単、迅速、安価に解析するSNPタイピング手法の開発を目指し、臨床現場での使用を見据えた検出系の構築を進めた。臨床現場では検体の遺伝子が少量であるため、遺伝子の増幅 (PCR) を必要とする場合が多い。そこで、DANPがDNAへの結合によって蛍光波長が変わる特徴をPCRと組み合わせたSNPタイピング法 (ヘアピンプライマー-PCR法、HP-PCR法) を開発した。PCRによるSNPタイピングでは、SNPサイトを3' 末端に持つアレル特異的プライマーを使う。このプライマーの5' 末端にシトシンバルジを含むヘアピン構造を導入し、PCR増幅を行った。PCRの進行と共にヘアピン構造が開き相補鎖が合成される。その結果、シトシンバルジ構造に結合していたDNAPが遊離し、蛍光強度が変化する。HP-PCR法を用いてチトクロームP450のサブタイプCYP2C9*3の多型解析を実証した。HP-PCR法はプライマーの濃度を定量することで、遺伝子の定量も可能である。

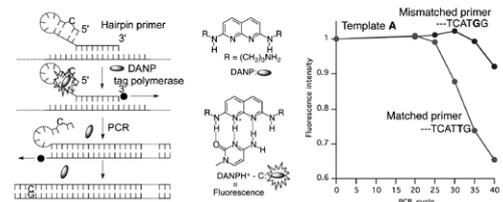


Figure 2. ヘアピンプライマー (HP)-PCR法の概要とHP-PCRにおける蛍光強度変化

PCR前には DANP がシトシンバルジ構造に結合するが、PCR が進行するに従ってヘアピン構造が消失し、蛍光強度が減少する。テンプレートがアデニン (A) の場合には、マッチのシーケンスを持つプライマーを使うと PCR の早い段階から蛍光に変化が生じるが、ミスマッチのプライマーでは、蛍光強度変化が小さい。

更に私が開発したHP-PCR法のアレル特異性が、SNPサイトに合致するプライマー (コンペティタープライマー) を同時に用いると、劇的に改善される事も見いだした。このアレル特異的HP-PCR法は、化学原理が単純明快で、かつ操作的にも極めて簡単な実用的SNPタイピング法となっている。

逆転写 HP-PCR 法による RNA ウイルス検出 (Figure 3)

HP-PCR 法はその単純な原理のため、殆ど全ての PCR 技術に応用可能である。現在ウイルス感染の確定診断は、ウイルス量が少なく検査ができないウィンドウ期間が短い PCR 法が世界保健機構 (WHO) により推奨されている。私は HP-PCR 法と蛍光分子を組み合わせ、高感度且つ簡便な感染現場で使用できるウイルス検出法の開発を目指した。110ヶ国以上で風土病となっているチクングニア熱ウイルスは RNA ウイルスであり、PCR で検出するためには RNA から DNA への逆転写 (RT) が必要となる。RT 及び PCR のプライマーに同一なヘアピンプライマーを使い、1チューブ内で RT-HP-PCR を行った。感染患者の血清を使ってこの RT-HP-PCR の実用性を調べた結果、95%以上の精度でウイルスが検出できる事を実証した。

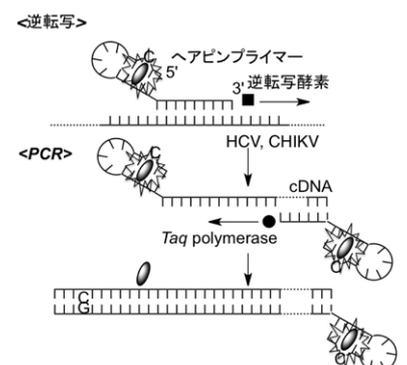


Figure 3. 逆転写HP-PCR法によるウイルス検出

IV. 受賞者の挨拶

奨励賞受賞に寄せて

大阪大学産業科学研究所 精密制御化学研究分野 武井 史恵

この度、第18回日本女性科学者の会奨励賞を賜り身に余る光栄です。改めて私の努力だけでなく、皆様のご協力により頂戴出来たものであることを強く感じております。

私は大学卒業後、大阪大学産業科学研究所で研究・教育活動を行って参りました。8年前からそれまで行ってきた有機金属化学の研究から未知の世界のゲノム化学における研究をスタートさせました。最初は戸惑うことばかりでしたが、がむしゃらな実験と周りの方々の積極的な協力により、今では国内、国外の研究者と共同研究を行うまでになりました。一昨年にはドイツへの4ヶ月の海外留学も経験し、自分の知識も可能性も広がりました。この仕事を始めた時は不安しかありませんでしたが、“前進あるのみ”で進めばどうにか道は開けてくると実感した期間でもありました。今後は、今まで培ったことを基盤として核酸を使った幅広い分野へチャレンジし、自分自身のオリジナルな仕事へと発展させて行きたいと考えています。

今回頂戴しました賞状からは、『ここで満足すること無く、この賞を励みに今まで以上に努力し、先輩の先生に恥じないような仕事をしなさい』というオーラを強く感じます。このオーラに負けないように自身の研究、そして教育に全力を尽くして行きたいと思っております。最後になりましたが改めて日本女性科学者の会、会員の皆様、一緒に研究して頂いた全ての皆様、大阪大学産業科学研究所、精密制御化学研究分野のスタッフ、学生の皆さんに心より感謝致します。

女性が科学に関わる意味・・・

NPO法人知的人材ネットワーク あいんしゅたいん 理事長 坂東 昌子

この度は、功労賞をいただき光栄です。私のような生き方を認めてくださったことに感謝しています。

若いころ、まだ世の中では、保育所などというところ、「あつかましい」「冷たい母親だ」などという論調が支配的だったころ、京都大学に保育所をとという思いを実現するために、「京大に保育所をつくる会」を仲間と立ち上げました。そして、狭い我が家を開放して共同保育をしながらネットワークを広げました。そこでは、集団保育の意味、子どもの発達を研究している女性たちに学んで、次世代の子育てを俯瞰した目標を持つことができました。科学者ならではの取り組みでした。そして、ネットワークを広げることで不可能に思われた目標を実現できることを実感したのでした。

そして今、また、ポストクや定年退官後の知的人材を活用するためのNPOを立ち上げ、退職金をはたいて手に入れた小さな事務所で頑張っています。こうした層の持つエネルギーを活用するすべをネットワークの中で探していきたいと思っています。女性科学者は、定年後、あるいは職がなくても、いろいろな工夫をしながら、あちこちで活躍している姿は、男性の比ではありません。このような皆さんと手を取り合ってネットワークを広げて、社会的な活躍の場を作り出していきたいと願っています。

世間の常識を学び1人前に育っていく男性たちのネットワーク、「オールド・ボーイズ・ネットワーク」から外れた女性たちでしたが、今では、新しい価値観で、「アクティブ・ガールズ・ネットワーク」がたくさんできました。そこでは、自らの視野を広げ、領域を超えた連携を可能になったと思います。

3・11以後、これまで、狭い枠の中に閉じこもっていた科学者は、市民と一緒に話合い、そしてさらに広い視野で科学的に正しい情報を社会に発信する義務があることを痛感しました。女性という共通の立場からのネットワークを持ち、異分野交流を実践してきた女性こそ、次の時代のリーダーになれるのでは、と感じるこの頃です。ともに歩み続けていきたいものです。今後もお互いに連絡を取り合っていきたいですね。

功労賞を受賞して「ひとこと」

日本大学薬学部 上席研究員 大坪 久子

女性研究者支援といっても、私の場合、ネットワークでパブコメや署名を呼びかけたり、要望や提言をまとめたりと、表には出ない地味なことばかりですので、そういった地味な活動にも目を向けて下さった日本女性科学者の会にこの場をお借りして感謝申し上げます。

IV. 受賞者の挨拶

最近気づいたことなのですが、それは、人生は、何がどこでどうつながっているのか、年を経てはじめて驚くほどよく見えてくるということです。その気づきから、私は若い方々に「若い時代に異文化にどっぷりつかること」と「早以内に自分の根っこを持つこと」をお勧めします。

私は今、日米の女性研究者支援の違い、そしてそこに係わる女性研究者の表現型の違いに興味を持っています。具体的に言えば、日本の女性研究者支援は、何かあると「男女の対立の構図」になってしまい、若い世代であってもいまだに女性が一步ひくことで、その場を丸く収めるのをよしとする文化があるということです。米国の場合、男女の問題も根強いですが、人種を含めたminorityの課題として理解されています。そして、その違いが結果的に大きな差を生み出してきたと考えます。近年の我が国を見ても、女性研究者関連の施策が後退しそうになるときは必ずこのバイアスが働くと思うようになりました。

私は、20代の後半から10年近く、1970年代から80年代にかけて、研究者としての基盤を確立する時期に米国で研究生活を送りました。その時代は、まさに機会均等法施行直後の大きなうねりの中にありました。そしてpositive actionもdual career問題も前向きに進められ、若くて輝いている女性研究者集団を直ぐ傍で見えました。輝いている状況ばかりを目にしたのは私の幸運だったのかも知れませんが、当時を知っているので、positive actionには抵抗はありませんし、dual career問題もきっと改善できると思っています。むしろ、日本の若い女性研究者もやり方次第であるように輝くことができるはずだとの確信があります。これが私の異文化体験で、私のmotivationの根っこにあります。何かを実行していくときに、根っこ、すなわち推進力の源は大切です。また、思考の物差しが複数あることも重要です。

勿論、「根っこ」は研究面でも当然必須のもので、長く研究を続けて来られた方々には必ずこの「根っこ」があって、何かあったときには必ずそこに戻っていくような、支えの場所になっていることは確かです。

ですから、私は若い方々に、できるだけ早い時期に研究の上で確かな「根っこ」を持つこと、そして一度は「どっぷりと異文化につかって、複数の物差し、複眼的思考を獲得すること」をお勧めします。そうすれば、年を経て物事がよく見えるようになったとき、自分にしか描けない軌跡がそこにできていることに気づくこともあるかと思います。

V. 第19回「日本女性科学者の会奨励賞」候補者募集要項

『日本女性科学者の会奨励賞』募集要項

対象者：広く理系の分野で研究業績をあげ、その将来性を期待できる方で、かつ本会の目的に賛同し、その達成のために努力していると認められる本会会員を対象とします。特に年齢、国籍、性別は問いませんが、管理職（教授、部長等）にある方はご遠慮下さい。

※応募と同時に入会申し込みも受け付けます。詳細はSJWS事務関係「入会案内」の項目をご覧ください。

奨励賞：賞状および奨励金20万円（年1～3件）、本会総会（例年6月）において贈呈

応募書類：①本会所定の書式（本会ホームページ<http://www.sjws.jp/> からダウンロードして下さい）
②論文リスト
③関連する主要論文（3編。なお主要論文は過去10年以内のものとする）

応募方法：Eメールにて提出（①に署名した用紙はPDF化して送付して下さい）添付ファイルには応募者の氏名を記載し、ひとつのホルダーに入れて圧縮（zip形式）してお送り下さい。

応募期間：2013年11月1日（金）～11月15日（金）必着

提出先：日本女性科学者の会賞連絡事務局 近藤 科江 理事 宛 E-mail: award.sjws@gmail.com
件名を「日本女性科学者の会奨励賞応募」として送信して下さい。

決定時期：2014年3月末頃（郵便にて本人宛通知）

VI. 会長挨拶とお知らせ

会長として二期目を迎えて

日本女性科学者の会 会長 大倉 多美子

会長をお引き受けして2年が経過致しました。当会の活動範囲が年々増え、一部の方々のご尽力に頼らざるを得ない現状に、ボランティア団体としての限界を感じております。今回初めて選挙管理委員会の下で会長選が実施され、引き続きあと2年の重責を担うことになりました。しかし、今回の選挙で問題点が多々露呈されました。これは、現代日本社会を生きる多くの人々に歴史の転換期にいるという意識がないことに由来するのように感じます。灰色の未来を描いて悲観的になる必要はないですが、未来はバラ色という楽観論には根拠がありません。当会存続の危機を乗り越えるには、責任感を持った次世代若手の活躍、そのための人材育成が不可欠と考えております。

男女共同参画社会の推進により、女性の地位が向上した反面、間違った男女平等が見え隠れする昨今となってきました。女性が男性と同様の社会構図になるのではなく、女性の真の実力が正しく評価されるのが当り前の世の中になるまでは、当会存続の意義があると思います。当会が社会的責任を自覚した女性科学者の高い組織力を持つ集団であり続けることが大事であると考えます。会員から現場の問題点などを集約し、行政へ反映させ現状改革していくことにより社会貢献を果たし、また次世代のリーダーとなる若い優秀且つ将来に責任の持てる人材を育成する団体として、社会的に認知されることを願って止みません。

今期の2年間で、次世代への継承に向け、まず当会の運営を担う理事会の活性化と刷新を図ります。理事数を少数精鋭とし、各理事に自覚と責任を持って活動をお願いします。担当理事には当会の豊富な

人材（特に若い方々）を登用していただき、会員の積極的なご参加をお願いして運営に当たっていただきたいと思います。支部理事も、各地域で独自性を持って、社会に還元すべく積極的な活動をお願いしたいと考えています。ここで重要課題として喚起いたしたいのは、平成20年の法人に対する法律の大改正により、当会も対応を迫られている現況についてです。事務局の固定化、会員が活動し易くするための財源の確保などのために、法人化移行の議論も除々に進めてまいります。同時に、最新技術を駆使し運営の効率化を図ってまいります。

今年度の活動には、8月9日 国立女性教育会館での中高生夏の学校、9月22日 青森県六ヶ所村文化協会読書愛好会発足20年記念円卓シンポジウム、10月7日 男女共同参画学協会連絡会シンポジウム、11月12日 日中韓フォーラム（下記参照）、11月16日 第2代幾瀬会長を偲ぶ会、12月例会、2014年1月12日 新春懇談会、2月2日 内閣府との共催事業「東北地方理系女子中高生との対話による復興支援」シンポジウム（8ページ参照）などが予定されております。会員の皆様にはこれらの行事への積極的なご参加を、お願い申し上げます。

世に多くの先達を輩出してきた歴史を踏まえ、若手育成、当会発展のために、会員の皆様のご尽力、ご協力を重ねてお願い申し上げます。



第5回 日中韓 女性科学技術指導者フォーラム開催のお知らせ

来る2013年11月12日火曜日に、市ヶ谷日本大学会館において、第5回日中韓女性科学技術指導者フォーラム（主催：日本大学、INWES-Japan／後援：文部科学省）が開催されます。テーマは、「科学技術分野における女性研究者のリーダーシップ育成教育」です。翌13日水曜日には、同フォーラムのサテライト会議として、つくば市（物質材料研究機構予定）に場所を移し、「東アジアの女性研究者の採用と活躍促進に関する国際調査に基づくパネルディスカッション」が行われます。どうぞ皆様奮ってご参加下さい。内容詳細につきましては、追って下記ホームページに掲載される予定です。

http://www.nihon-u.ac.jp/research/project/chairman_grant/index.html

Ⅶ. 東日本大震災関連、新入会員

《平成25年度 国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業》

「東北地方 理系女子中高生との対話による復興支援」

「原子力・生物学と物理」プレ・コンファレンス ～私たちに何ができるか～

【開催趣旨】

生活基盤の復興に続く課題の一つとして、理系を担う次世代若手育成による裾野の拡大が地域に夢と希望を与え活性化へ貢献すると期待されます。理系女子育成に向けた環境整備を行うには研究者と直接話す機会が無い中等教育の段階から、メンターシステム導入による世代間のつながりを構築することが有効です。将来、自らが望む理系分野への進学、理系の仕事への従事をスムーズに選択出来、管理職やリーダーとして質の高い人材を育てることは、社会における理系人材活用の観点からも大いに期待されます。

日本女性科学者の会は主催側でもあり、多くの会員皆様のご参加をお願いいたします。

【日 程】平成26年2月2日(日) 12時開始～17時終了、半日の開催を予定

【会 場】住所JR東北新幹線福島駅前（西口）「コラッセ福島」

住所：福島県福島市三河南町1番20号

地図：<http://www.corasse.com/category/access>

多目的ホール（最大360人収容）をメイン会場といたします。

【開催の形態】複数の招聘講演者による講演につづき、参加者と講演者を交えたテーブルディスカッションを行う

【来場者】被災県を中心とする東北地方中学生、高校生、大学生、大学院生、中高大教員、教育委員会関係者、保護者、その他。

【主催等】内閣府（主催）、男女共同参画推進連携会議（主催）、日本女性科学者の会（主催）

ふくしまサイエンススクールコミュニティ(FSC)(共催)、福島サイエンスプラットフォーム(共催)、福島県教育委員会（後援）

以上

内閣府男女共同参画局（男女共同参画推進連携会議事務局） 松久保大作

日本女性科学者の会 会長 大倉多美子

オーガナイザー 日本女性科学者の会 理事 本間美和子

————— 2012年3月発行のSJWS会員名簿に掲載されていない新入会員 —————

（括弧内は入会年月日、職名は入会時）

2011年度

(2012.03.30) 塩満 典子 (独) 科学技術振興機構 科学技術システム改革事業推進室 室長

2012年度

(2012.07.18) 岡野 純子 滋賀医科大学解剖学講座 准教授

(2012.10.02) 後藤多津子 Oral Diagnosis & Polyclinics, Faculty of Dentistry, The University of Hong Kong, Associate Professor

(2012.10.23) 伊藤 愛子

(2012.10.24) 河合 佳子 信州大学医学部器官制御生理学講座 准教授

(2012.10.30) 茂木 瑞穂 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科小児歯科学分野 助教

(2012.10.31) 鈴木真由美 富山県立大学機械システム工学科 准教授

(2012.11.05) 清水 清香 北里研究所病院 医長

(2012.11.06) 八木 敬子 神戸薬科大学臨床薬学研究室 講師

- (2012.11.06) 中山 聖子 大阪医科大学附属病院血液内科 ポストドクター
 (2012.11.07) AMENGUAL PLIEGO MARIA OLGA 北海道大学大学院医学研究科 助教
 (2012.11.08) 岩井 玲奈 Columbia University, Postdoctoral Research Fellow
 (2012.11.08) 南保明日香 北海道大学大学院薬学研究院衛生化学研究室 講師
 (2012.11.09) 三浦智恵美 愛媛大学南予水産研究センター 講師
 (2012.11.15) HO LINGEE 大阪大学接合科学研究所日本学術振興会 外国人特別研究員
 (2012.11.15) 藤田 恭子 東京農工大学工学研究院 特任助教
 (2012.11.15) 松原由美子 慶應義塾大学医学部臨床検査医学 特任講師
 (2012.11.17) 多田 千佳 東北大学大学院農学研究科環境システム生物学 准教授
 (2012.12.26) 飯島 明子 神田外語大学イベロアメリカ言語学科 准教授
 (2013.02.10) 宇野賀津子 (財) ルイ・パストゥール医学研究センター 研究員
 (2013.03.18) 成瀬 桂子 愛知学院大学歯学部内科学講座 准教授

2013年度

- (2013.05.24) 田中 彩子 日立アロカメディカル株式会社
 (2013.05.29) 福田 弓子 味の素製薬株式会社
 (2013.06.06) 鈴木 紀子 岐阜大学大学院医学研究科産科婦人科学分野 学術研究補佐員
 (2013.07.02) 高橋 順子 明治学院大学法学部消費情報環境法学科 准教授
 (2013.07.11) 占部 貴子 (株) 東芝
 (2013.07.11) 城崎 由紀 九州工業大学若手研究者フロンティア研究アカデミー

VIII. 2013年度 (平成25) 理事会メンバー

- (2013年7月7日現在)
- | | |
|--|--|
| <p>会 長：大倉多美子
 (内閣府男女共同参画推進連携会議議員)</p> <p>本部理事：石川稚佳子 (総務担当)
 今栄東洋子 (賞担当)
 尾崎美和子
 (※男女共同参画学協会連絡会担当)
 角谷 治子 (※倫理委員会担当)
 小浪悠紀子 (総務※財務・名簿担当)
 近藤 科江 (※賞担当)
 中山 栄子
 (※提言活動検討委員会担当、男女共同
 参画学協会連絡会担当)
 宮本 霧子 (※国際婦人年連絡会担当)
 山口 陽子 (※ニュース担当、広報担当)</p> <p>支部理事：</p> <p>東北支部 (北海道 含)：</p> <p>本間美和子 支部長 (※広報担当)
 高橋まさえ</p> | <p>東海支部：永澤 秀子 支部長 (※学術誌担当)
 吉田 絵里 (学術誌担当)</p> <p>関西支部 (中国地方 含)：</p> <p>功刀由紀子 支部長 (※例会担当)
 玄番 央恵
 藤井 紀子</p> <p>九州支部 (四国、九州、沖縄)：</p> <p>小島 秀子 支部長
 谷口 初美
 大住 伴子
 以上20名</p> <p>監 事：大島 範子 (前会長)
 馬越 芳子 (前理事)
 以上2名</p> <p style="text-align: right;">(※：責任者)</p> |
|--|--|

Ⅷ. 総会報告、2012年度会務報告、2013年度事業計画

【2013年度総会報告】

日時：2013年6月30日（日）13：00～13：40
場所：学士会館302号室
議長選任：山口理事 出席者32名 委任状105通 総会成立
次第：(1)会長挨拶 大倉会長
(2)2012年度会務ならびに事業報告
川口総務理事 支部報告は東北支部 藤田理事
(3)2012年度収支決算と監査報告
小浪理事 監査報告 馬越監事 承認
(4)2013年度事業計画案
川口総務理事 承認
(5)2013年度予算案
小浪理事 承認
(6)理事退任、新任会長・理事承認
新任：高橋まさえ（東北支部）
退任：石野、石原、板倉、川口、佐藤、野呂、濱中、
増子、および 藤田（東北支部）
(7)支部活動報告（支部理事）：2）で済み
(8)法人化の件
大倉会長 公認会計士の説明
質問 佐々木元会長 尾崎理事
(9)その他 特になし
終了

（文責：野呂知加子）

【2012（平成24）年度会務ならびに事業報告】

1. ニュースの発行
・2012年9月 111号
・2013年3月 112号
2. 日本女性科学者の会学術誌の刊行
・2013年3月31日 第13巻（1号）発行
3. 総会
日時：2012年6月17日（日）13：00～13：40
場所：学士会館
出席：出席者：33名、委任状113名
合計146名；会則9条により成立
議事：
(1)会長挨拶
(2)2011年度会務ならびに事業・活動報告
(3)2011年度収支決算と監査報告
(4)2012年度事業・活動計画案
(5)2012年度予算案
(6)規約改正
(7)理事退任、新理事承認
(8)名誉会員称号授与
(9)支部報告（支部理事）
(10)その他
4. 第17回 2012年度 奨励賞・功労賞贈呈式ならびに
奨励賞受賞記念講演会、懇親会
・2012年6月17日（日）14：00～17：00
・場所：学士会館 302号室
・奨励賞受賞者
佐藤美由紀氏
博士（理学）群馬大学 生体調節研究所助教
「受精卵における細胞内リモデリングメカニズム
の研究」

・功労賞受賞者

田中 咸子氏

（農学博士 NPO法人キャリアー・ワールド理事長、
NPO法人藤沢市市民活動推進連絡会理事長）

5. 理事会（5回）
2012年7月22日（日）アルカディア市ヶ谷
2012年9月23日（日）アルカディア市ヶ谷
2012年12月23日（日）学士会館
2013年3月17日（日）アルカディア市ヶ谷
2013年5月19日（日）アルカディア市ヶ谷
6. 日本女性科学者の会 第9回学術大会
日時：2012年10月8日（月）祝
場所：アルカディア市ヶ谷
参加者：53名
懇親会参加者：35名
実行委員長：野呂知加子 理事
セッション1：一般演題（女性科学者の活躍～次世代
育成から最先端研究まで）：9題
セッション2：テーマセッション
「女性研究者のステップアップに必要な
アイテム」
ご挨拶：板東久美子 文部科学省 高等教育局長
[研究費] 塩満 典子 宇宙航空研究開発機構（JAXA）
国際部参事
藤井 紀子 京都大学 原子炉実験所放射線生
命科学研究部門 教授
小杉 尚子 NTTコミュニケーション科学基
礎研究所 研究主任
[奨励賞] 近藤 科江 東京工業大学 生命理工学研究科 教授
蓑田 裕美 資生堂 女性研究者サイエンスグラン
ト事務局サイエンスコミュニケーター
戸張 靖子 早稲田大学 教育・総合科学学術院
統合脳科学研究室 研究助手
[海外体験] 新倉ちさと 独立行政法人物質・材料研究機構
主任研究員
7. 東京ウィメンズプラザフォーラム参加
日時：2012年11月9日（金）
参加者：60名
福島県立高校より13名（教師1名含）招待
場所：東京ウィメンズプラザ ワールドカフェ形式
テーマ：「サイエンスネットワークを広げよう！
— 科学の楽しさを知ろう」
講師：阿部啓子（東京大学大学院農学生命科学研究
科特任教授）、高橋真理子（朝日新聞東京本社
科学グループ）、勝山雅子（株式会社資生堂食
品研究開発センター副主任研究員）、日野珠美
（NHK報道局報道番組センター社会番組部）
8. 新春懇談会
日時：2013年1月27日（日）13：00～16：00
参加者：24名
テーマ：「SJWSホームカミングデイ」
挨拶：内閣府男女共同参画局 佐村 知子 局長
講演1：高橋 まさえ会員
（東北大学金属研究所 2010年受賞者）
講演2：杉浦 美羽会員
（愛媛大学無細胞生命科学工学研究センター
2011年受賞者）

9. 第18回(2013年度)「日本女性科学者の会奨励賞・功労賞」の選考
 奨励賞応募者：21名
 ・奨励賞受賞者
 武井 史恵 会員 (大阪大学 産業科学研究所 助教)
 「蛍光標識を必要としない革新的遺伝子一塩基の蛍光検出法の開発」
 ・功労賞受賞者
 板東 昌子 会員 (NPO法人 知的人材ネットワーク あいんしゅたいん理事長)
 大坪 久子氏 (日本大学薬学部薬学研究所 上席研究員)
10. 女子中高生夏の学校2012
 (2012年8月9日～11日：野呂知加子企画委員長) への参加
 実験コーナー：荒谷前理事、宮本理事が担当
 ポスター展示：中山理事が担当
11. 第10回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム
 (10月7日：慈恵会医科大学) への参加
 ポスター発表：川口理事
 懇親会挨拶：大倉会長
12. 国際婦人年連絡会の2012年度活動
 月末には「女性の活力をいかし、男女平等参画社会形成に向けて諸施策推進の要望書」を携え、衆・参議員会館を訪問。8委員会各委員が分担して、全女性議員81名の各議員室にて面談し手渡した。4月19日の安倍総理の成長戦略スピーチ「6. 女性が輝く日本」にかなり具体的な方針が述べられたことはタイムリーな成果であった。
13. 会長選挙
 選挙管理委員会：宮城妙子、大島範子、小杉尚子 各氏
 自薦他薦4名のうち、2名が立候補
 3月17日理事会にて所信表明演説、5月10日まで郵送投票、5月19日理事会開票
 結果：理事28名中23名が投票、無効票1票、有効票22票、大倉多美子現会長12票、野呂知加子現理事10票にて大倉会長が再選された。
14. 法人化検討小委員会
 第1回 3月13日 第2回 5月14日
 東京薬科大学千代田キャンパス

【2013年度事業計画】

1. 日本女性科学者の会ニュース (113・114号) の発行
2. 日本女性科学者の会学術誌 (第14巻) の刊行
3. 定期総会 2013年6月30日 (日) 学士会館
4. 第18回 (2013年度) 奨励賞・功労賞贈呈式並びに奨励賞受賞記念講演会
 2013年6月30日 (日) 学士会館
5. 理事会 5回 (7月、9月、12月、3月、5月)
6. 新春懇談会、学術大会、例会等の開催
7. 第19回 (2014年度) 「日本女性科学者の会奨励賞」の募集と選考並びに「日本女性科学者の会功労賞」の選考
8. 女子中高生夏の学校2013、第11回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムへの参加
9. 第5回 日中韓女性科学技術指導者フォーラムへの参加
10. 東日本大震災被災地支援 (内閣府共催事業への応募)
11. 法人化への移行の検討

12. 支部活動
 東海支部
 2013年8月31日(土)の9:00～17:00に開催される、豊橋技術科学大学オープンキャンパスで、日本女性科学者の会東海支部の協賛として、全学イベントである小学生向け体験教室に参加を予定している。テーマは、「薬のカプセルをつくってみよう」。午前、午後の各1時間程度の時間で実施する。

X. 支部だより

東北支部：

青森地区

1. 2012年5月26日：荒谷美智「化学的にみた福島第一原子力発電所事故—放射線の基礎と事故の客観的現状」お茶の水女子大学第5回ホームカミングデイ 化学科・桜化会OUCA共同企画講演会、お茶の水女子大学理学部3号館7階大講義室、東京
2. 2012年6月12日：荒谷美智、中谷宇吉郎「簪をさした蛇」読みきかせ、六ヶ所村立泊小学校6年1組、六ヶ所村
3. 2012年7月10日：荒谷美智、中谷宇吉郎「簪をさした蛇」読みきかせ、六ヶ所村立泊小学校6年2組、六ヶ所村
4. 2012年8月10日：荒谷美智、中山榮子、宮本霧子、実験・実習「宇宙の星から学ぶエネルギー—基礎から学ぶ福島島の事故—、夏の学校2012～科学・技術者のたまごたちへ～国立女性教育会館、嵐山 埼玉
5. 2012年10月8日：荒谷美智、中山榮子、宮本霧子、NWEC夏の学校 実験・実習B「宇宙の星から学ぶエネルギー —基礎から学ぶ福島島の事故—」報告、日本女性科学者の会第9回学術大会、アルカディア市ヶ谷、東京
6. 2012年10月8日：六ヶ所村読書愛好会、上北・十和田・三沢地区男女共同参画セッション2012、放射線測定コーナー、十和田市文化センター、十和田
7. 2012年11月4日：六ヶ所村読書愛好会、青森県男女共同参画セッション式千壱拾式、放射線測定コーナー、県男女共同参画センター、青森
8. 2012年12月12日 “Women's Messages from the Village of Rokkasho to the World” 発行、六ヶ所村読書愛好会、六ヶ所村
9. 2013年3月28日：荒谷美智「“Women's Messages from the Village of Rokkasho to the World”の刊行と経緯について」下北半島活性化研究会、まさかりプラザ、むつ

仙台地区

1. 2012年1月5日：新年会 12:00～16:00、アエル6階セミナー室1B (参加者8名)、仙台

編集：山口 陽子・猪俣 芳栄

小杉 尚子・四谷 理沙

発行所：日本女性科学者の会 ©

事務局：〒160-0015

東京都新宿区大京町 13-15-203

慶應義塾大学医学部 大倉気付

TEL/FAX 03-6802-6708

XI. 第18回奨励賞・功労賞贈呈式およびレセプションと総会風景

